

<今回の対応>

<課題・問題点>

<今後の対応策>

JR復旧作業に係る応援・受援

- JR北海道は、軌道用除雪機械のほか、千人を超える作業員に加え、協力会社など連日百人規模の作業員等を動員し除雪
- JR北海道では、線路内での除雪作業には、安全確保のための事前教育が必要であるとして受援を見送った
- 輸送障害の発生に備え、間引き運転や計画的な運休等を実施

- 局地的な降雪予測や記録的な大雪等を想定した場合の作業員及び除雪機械や運搬車両等が不十分であり、体制強化が課題
- JR北海道は、自社・協力会社等だけでは対応ができない場合における受援体制の構築が必要

JR北海道における除雪体制の強化及び受援体制の構築と活用

- 気象会社からの情報収集や、カメラ・積雪深計の設置など、降雪状況に係る把握体制の強化 [JR北海道]
- 記録的な大雪等を想定した除排雪機械、融雪設備の増強 [JR北海道]
- 記録的な大雪等を想定した社内外からの更なる排雪応援態勢の強化 [JR北海道]
- 外部機関との事前協定に基づく除排雪受援を検討 [JR北海道、関係団体]
- 災害対策基本法に基づく応援を要請する場合の手順や連絡体制等の整理 [JR北海道、道、関係市町村]

バス路線運行継続に係る支援

- バスの運休情報などをテレビや新聞、HPなどにより周知するとともに、札幌市の協力によりSNSや市営交通案内サイトで周知
- バス事業者から札幌市にバス路線の優先的な除排雪を要請

- バス事業者として最大限の利用者への周知を行ったが、情報が行き届かない部分があった
- 道路の狭隘化でバス運行が不能となり、運休や遅延が多発

公共交通利用者に対する情報周知

- 災害等情報伝達システム「北海道旅の安全情報」やメディア等を活用した適時適切な運行・運休情報等の周知、行政・交通事業者等が一体となった一元的な情報発信体制の検討 [北海道運輸局、道、交通事業者]
- テレワークの実施やマイカー通勤の自粛など、移動自粛の呼びかけ [道、市町村、経済団体]

代替輸送の確保

- 北海道運輸局、JR、バス事業者の連携により、空港連絡バスの増便や臨時列車の運行、タクシーの集中配車などの代替輸送を確保
- NEXCO東日本では、札幌高架区間において夜間通行止めによる集中排雪を実施
- 空港滞留者の発生を抑制するためにフローコントロール（交通量調整）を実施

- 空港連絡バスの増便でも対応しきれない場合における新千歳空港滞留者への対応が不十分
- 快速エアポートの運行再開に関する情報が二転三転し、再開の見極めに関する精度の向上が必要
- 高速道路や主要幹線道路などの除雪状況を各関係機関が迅速に把握することが難しい

優先区間における効果的・効率的な除排雪

- 都市内や都市間の公共交通ネットワークを構成する路線など、バス・物流事業者などから意見を聞きながら、あらかじめ大雪時に優先して除雪水準（幅員）を確保する路線・区間を定める [道]
- 市内の主要な幹線道路やバス路線において、あらかじめ大雪時に優先して除雪水準（幅員）を確保する路線・区間を定める [札幌市]
- 雪堆積場までの運搬経路の幅員を確保し、運搬時間の増大を抑制するため、運搬経路の優先的な除排雪の実施を検討する [道、札幌市]

「札幌-新千歳空港」間における代替輸送の確保

- 記録的な大雪等の発生時における重大事故や長期運休を回避するための計画的運休の実施 [交通事業者]
- JR運休状況や高速道路・主要幹線の除雪状況に応じた、代替輸送バスの確保やタクシー営業区域外運送の実施など、代替輸送手段の確保がより円滑に行える体制の構築 [北海道エアポート、北海道運輸局、交通事業者]

関係機関相互における情報共有

- 道路情報や運行・運休情報等（計画的な運休、間引き運転等）に係る関係者間の情報共有を図る連絡体制の構築 [北海道運輸局、道、交通事業者、気象台]